

◆TOPICS

令和元年度 東北ブロック普及職員研修

ロボット、AI、IoTといったスマート農業技術の進展は著しく、社会実装によりスマート農業を実現する取り組みが全国で進んでいます。令和元年度東北ブロック普及職員研修は、東北農政局との共催により「スマート農業技術の知識習得、スマート農業に関する地域の現状整理、スマート農機実習」をテーマに9月18日～9月19日、東北農業研究センター（岩手県盛岡市）で開催され、東北全県（6県）の普及に関わる職員19名が参加しました。研修初日は、「経営管理システム」の概要説明、「岩手県



普及職員研修講義の様子

花巻地域におけるスマート農業推進に関する活動」「青森県における「青天の霹靂」品質向上の取組」の紹介、および「農業データ連携基盤（WAGRI）」の説明と「AIを活用した生育予測」の実習が行われました。2日目はスマート農機に搭載された「GNSSガイダンスシステム」の操作実習及び「自動操舵システム」の実演とともに、乾田直播栽培技術、デジタル土壌図等農研機構開発技術の情報提供を行いました。

本研修は平成29年度から毎年異なるテーマで開催しており、参加者からはこれまでに「他県との情報交換ができて有意義」「地域での普及活動に役立つ内容」との感想・評価をいただいています。今年度は「WAGRIやGNSSの体験ができて、地域でのスマート農業に関わる技術普及に役立つ」等の感想をいただきました。講演や実習・実演を担当した研究員も、県普及職員との交流は開発技術普及の上で重要との認識であることから、今後も社会情勢に即した内容での研修を設定していきたいと考えています。

（地域戦略部事業化推進室）



圃場での実習（GNSSガイダンスシステム）